【愛知県田原市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末やクラウドを活用できる環境が整っていれば、多くの情報の中から自分が必要とする情報を選択・整理し、自分の考えを表現することができます。また、友達の考え方を知ったり、友達の学び方を参考にしたりすることで、直接友達に相談することができます。

このように、1人1台端末やクラウドを活用した環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びにより、「生涯にわたって自ら学びを進め、深めていくことができる児童生徒の育成」を目指します。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、端末としてChromebookを児童生徒、教職員に整備をしてきました。また、各校の無線LAN環境を整備するとともに、従来は各校とセンターサーバー間を1Gbps回線1本で接続していたのを、センターサーバーからインターネットへの回線を1Gbps回線4本の帯域保障回線に増強して、クラウド環境（Google Workspace）を十分に活用することができる環境を整備してきました。

自ら学び続ける子を育成するために、探究の学習過程と各教科の見方・考え方を基盤として学び、その道具としてタブレット端末を活用していく取り組みを始めました。

低学年では、まだローマ字を入力できないため、写真や動画の活用を中心に取り組んできました。タブレット端末で野菜や生き物を撮影し、記録写真を比べたり、拡大したりしながら自分のペースでじっくり観察することができました。また、動画を使って、生活ではシャボン玉の飛ばし方を、体育ではゲームでの動きを見て、飛ばし方や動きの改善を図った。このように、主に学習過程の情報収集に写真や動画を活用しました。

高学年では、調べて分かったことや考えたことなど、個人追究の時間に活用して、即時共有を図った。クラウドによって、互いの追究の途中の様子を随時見られるようになったことで、どのように取り組めばよいのか迷った時のヒントにしたり、自分と同じ考え・違う考えに触れたりすることで、自分の考えを振り返り、見直すきっかけとなりました。さらに、チャット機能を活用することにより、子どもたちへの情報量は増え、協働的な学びはさらに促進されました。

教科横断的な学習の基盤としての情報活用能力の育成の点においても、教科書や資料集からの情報の読み取り、情報の整理・分析、ペア・グループ学習の時など、子どもたちが自分で学んでいく過程の手助けとなりました。例えば、教科書からの情報の読み取り、情報の整理・分析の方法、友達とディスカッションするときの方法などです。

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、特に以下の項目については、多くの学校（70%以上）で実施されており、早急に全校で確実に実施できるように取り組んでいきます。

質問	県 (小) 県 (中)	本市 (小)	本市 (中)
前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）の ICT 機器を活用した授業を 1 クラスあたりどの程度行いましたか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	90.2% 87.3%	72.2%	100%
教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修会はありますか。（「ある」「どちらかといえば、ある」を合わせた割合）	91.5% 89.3%	88.9%	100%
コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合）	88.1% 86.1%	88.9%	100%
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	92.4% 91.7%	83.4%	100%

なお、以下の項目の実施率は、50%以下であるため、すでに実施している学校の活用状況を今後共有し、こちらも全校で実施できるように取り組んでいきます。

質問	県 (小) 県 (中)	本市 (小)	本市 (中)
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	69.6% 70.6%	50%	75%
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	47.6% 45.4%	27.8%	45.4%
調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	55.1% 57.5%	5.6%	57.5%
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。（「ほぼ毎日」「週 3 日以上」を合わせた割合）	42.5% 36.5%	0%	50%

自分で学び続ける子の育成に取り組む中で明らかになってきた課題は、教師による児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面の設定と、子ども一人一人の見取りと助言です。一人一人の活動がクラウドによって以前より見えやすくなったものの、クラス全員の活動や進捗をどのように把握していくのか、助言の内容やタイミング

を一人一人の個性によってどのように工夫していくのかなど、教師のファシリテーターとしての資質能力が課題となってきました。

また、1人1台端末とクラウドの活用はすべての学校で始まっているが、個別最適・協働的な学びの実現については差があります。すべての学校で個別最適・協働的な学びが実現するよう、今後も推進していきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新により、1人1台端末とクラウド環境を引き続き維持していきます。1人1台端末の日常的な活用はほぼできているが、協働的な学習におけるクラウド学習ツールの利活用が不十分であることや、個別学習のためのソフトウェアを導入していないこともあり、個別最適・協働的な学びの充実についてはまだ達していません。これを実現する手立てとして、学校訪問の要項の資料として提示してもらった「本年度の重点課題」の中に「ICTを活用した取組」を位置付け、取り組み状況を聞いたり、授業参観での様子について価値づけや助言をしたりしています。また、市内の先進校の視察を促進します。教師自身が実際に見ることで、主体的に学ぶことができるようにしていきます。さらに、校内でのチャットを使った実践共有、子どもたちと同じ環境を使った教員研修の充実に取り組んでいきます。本年度は夏休みに各学校でプログラミング学習の実技研修の時間を設定した。情報視聴覚部会とも連携し、協働的な学習を進めるためのツールの調査を実施、その結果を各学校に広めています。令和7年度からは、個々の習熟度に応じて学習を進めることができるAI搭載のデジタルドリルを導入します。これらにより、市内すべての学校で個別最適・協働的な学びを一体的に実現できるようにします。

1人1台端末を活用した学びの保障についても、取り組みを維持していきます。1人1台端末の活用を希望する不登校児童生徒への支援については、クラウド環境を活用した連絡体制、オンラインでの授業への参加が少しずつ進んできています。また、市の教育支援ルームにおいても、インターネット環境を整え、教育支援ルーム運営員へも端末を配備したことで、個に応じた学びができるようになりつつあります。しかし、児童生徒の希望の有無によるため、まだ十分とは言えません。さらに、他市に比べて少ないものの、この1・2年で少しずつ転入している外国人児童生徒への支援が必要になり、翻訳アプリを使ってやりとりをしています。このような取り組みも継続して行っていきます。